

東京医科歯科大学 献体の会会報

けんたい

第44号

発行／東京医科歯科大学 献体の会

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 03-5803-5147

国立大学法人 東京医科歯科大学医学部解剖学教室内



撮影 Wachirawit Sirirat

目次

ご挨拶

東京医科歯科大学医学部附属病院長 大川 淳

東京医科歯科大学歯学部長 興地 隆史

《特別講演》

「大相撲力士のスポーツ傷害」

社会福祉法人同愛記念病院財団 同愛記念病院名誉院長 土屋 正光

《東京医科歯科大学関係行事》

解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式

挨拶 東京医科歯科大学学長 吉澤 靖之

挨拶 献体の会会長 佐藤 達夫

感謝の言葉 学生代表 飯村 可菜

東京医科歯科大学篤志献体活動の報告会

ならびに第四十三回東京医科歯科大学献体の会総会

平成三十年度解剖体追悼式

追悼の辞 東京医科歯科大学学長 吉澤 靖之

追悼の辞 東京医科歯科大学献体の会会長 夏 博正

追悼の言葉 学生代表 佐藤 達夫

追悼の言葉 学生代表 夏 博正

《篤志解剖全国連合会関係行事》

第四十二回篤志解剖全国連合会団体部会・大学部会合同研修会

第四十八回篤志解剖全国連合会総会

《会員寄稿》

【随筆】

日本国医療向上に感佩

健体を献体、還暦プラス十八年、大学入学、

病気の内に三十年

東京都立水元公園

【詩】

【短歌】

【俳句】

【川柳】

《東京医科歯科大学献体の会会則》

《東京医科歯科大学献体の会役員》

《東京医科歯科大学からのお知らせ》

《会員のご家族へのお願い》

《会報作成にあたって》

《ご挨拶》



東京医科歯科大学
医学部附属病院長 大川 淳

東京医科歯科大学医学部附属病院の病院長を務めております大川からご挨拶申し上げます。献体の会の皆様におかれましては、平素より医学教育・研究に対して深いご理解と多くのご協力を賜り、大変感謝しております。解剖体追悼式にうかがうたびに、皆様の篤志に対し、強い感銘を受けてまいりました。

私は二〇一六年より医学部附属病院長を拝命しましたが、整形外科を専門としており、そのなかでとくに脊椎脊髄外科を担当してきました。この領域の最近の進歩は、数々のチタン製インプラントが出現し、強力な固定力により高齢者であっても、加齢変形した脊椎の矯正が可能になった点です。腰が曲がって慢性的な痛みを抱え、下を向いて歩く姿勢がお年寄りのイメージですが、それは過去のものになろうとしています。高齢になっても若いころと同じような身体活動を維持できる期間（これを健康寿命といいます）を延ばすことが、整形外科の目標です。医学医療の進歩は、寿命の改善だけでなく、高齢者の生き方まで変えることができるようになってきました。

そのため最近では、医療の質の評価として、「結果主義」が重要視されるようになりました。最終的に患者様は元の生活に戻れたか、後遺障害は軽かったか、などの「結果（アウトカム）」が問われます。いわゆる五年生存率などは、評価の基準が生きるか死ぬかのどちらかなので評価に迷うことはありませんが、生活の質の評価は簡単ではあ

りません。よりよく生活できるようになったかについて、多くの疾患に共通な評価軸として、健康関連QOL（生活の質）の向上が求められるようになり、その評価ツールの代表格がEQ-5Dと呼ばれるものです。EQ-5Dでは、移動の程度、身の回りの管理、ふだんの活動（例・仕事、勉強、家族・余暇活動）、痛み／不快感、不安／ふさぎ込みの五つの項目について、問題はない、いくらか問題がある、できない（ひどい）の三段階で評価します。これにより、多種多様な治療方法が、同じ土俵で評価できるようになりました。また、画期的な新薬や手術方法であっても、使われるお金と得られる効果のバランスが問題になっていきます。つまり、よいアウトカムを得るために必要な医療費を考慮して、治療手段の価値を決めることが行われています。手術治療の効果も、生命を救うだけでなく、そのアウトカムも評価されるということですが。

手術治療は、患者様の身体にメスを入れることで始まります。最近では内視鏡やロボット支援手術などのさまざまな低侵襲手術が開発されました。傷が小さくなって入院期間が短く、最終的な健康関連QOLが良ければ、その手術方法は優れているということになります。この低侵襲手術を安全に実施するうえでもっとも重要なことは、小切開の奥の組織の解剖を熟知することです。小さな切開から内視鏡やロボットのアームを入れますが、どのような手術であっても、最終的にはその奥の患部にたどり着かなければ手術になりません。

外科医の修練の過程はあまりご存知でないかもしれませんが、最初に執刀するときには、穴のあくほど外科手術書を眺め、時には解剖学の教科書を横に広げつつ、頭の中で手術を組み立てていきます。それでもなお、手術中には指導医から口酸っぱく注意点が指摘されます。汗をびっしょりかいて手術が終わり、そこで患者様が麻酔から覚めるのを待ちます。最初にかける言葉は、私たち脊椎外科医の場合には、手足を動かしてください、です。そのときに、手足が少しでも動けば

麻痺は起きてないことがわかり、術者は安堵します。そのあと、手術記録を作成します。手術の手順を所見とともにスケッチを描いて、カルテに記録します。この繰り返しで手術は上達します。

新たな手術に臨むたびに、医学生の際に解剖実習でご遺体に最初にメスを入れた瞬間を思い出します。外科系志望の学生にとってご遺体の解剖は、崇高なご遺志とご家族の皆様の深いご理解・ご厚意に触れることができる貴重な機会であることはいまでもありません。そのお気持ちを通じて、医師としての基本である、患者様に対する真摯な姿勢や倫理観を身につけることとなります。同時に、メスを人間の皮膚に入れてから目標臓器に達するという、外科手術を模擬するという意味合いもあります。とくに最近では医学教育だけでなく、新しい手術方法の開発や技術修練にも解剖体が利用されるようになってきました。ご遺体を解剖させていただくことが、医学生のための教育だけにとどまらず、医学医療の進歩に不可欠であることは間違いがありません。

外科医の立場からご遺体を解剖させていただくことの意義について述べてきましたが、改めまして、献体の会の皆様から提供される、医学教育・研究と医療の進歩に対する深いご理解と高遠なお志しに対し、深甚なる感謝の意を表したいと思います。おひとりおひとりの貴重なご貢献を忘れることなく、日々の診療、病院運営、若手医師の指導に邁進することを誓う次第です。

《ご挨拶》



東京医科歯科大学

歯学部長

興地 隆史

平成二十九年四月より歯学部部長を拝命致しております興地でございます。献体の会会員の皆様には、平素より本学の教育ならびに研究に對して多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。心から感謝の意を表したく存じます。

さて、本学は「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」とのミッションのもと、国内唯一の医療系総合大学として、幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、創造性と開拓力、さらには国際性と指導力を備えた人材を育成し、人々の健康と社会の福祉に貢献することを目指しております。

私の所属する歯学部におきましても、このミッションを基盤とし、歯科医療従事者としての基本的資質のみならず、歯科医療を通じた全人的医療への貢献、さらには、高度化・複雑化する医療や疾患への対応が可能な幅広い資質を備えた人材育成を目標としておられるところであり、我が国はご承知のように超高齢社会であり、これに伴い歯科医療もその構造を大きく変貌させています。歯・口腔だけではなく、常に患者様の心身の状態にも配慮しながら、他職種との連携のもと、チーム医療の一員として健康長寿に貢献できる歯科医療人の育成が、私どもにとりましての大きいミッションとなっております。

さて、人体解剖学実習は、学生にとりましては人体の構造を自分の目で確認し、自らの手で触れることで、教科書に書かれた机上の知識

を体験に裏打ちされた確かなものとする貴重な機会であります。ここでは学生は、人体の構造の緻密さや神秘を目の当たりにするのみならず、教科書に描かれたイラストだけでは決して真の理解を得ることができないことを否応なく経験するとともに、個人で異なる人体の多様性にも触れることとなります。

多くの学生は、教科書通りといえない問題の解決は得意とはいえません。自ら考え、仲間と協調しながら課題を見出し、解決の取り組みを行うことは、医療のプロフェッショナルが不確実性を伴う医療現場に向き合う上で日々実践すべきことに他なりません。学生がこれを生まれて初めて実感する機会として、人体解剖学実習には計り知れない意義がございます。

さらに、人体解剖学実習は学生にとりましては、ご遺体と対面することで生命の尊厳に畏敬の念をもって触れるとともに、「生と死」を深く考え人間的に成長する機会となります。本学のミッションの中の「癒し」の心を育む貴重な機会と換言することができます。また、献体の会にご関係の全ての皆様の尊い志により、医療従事者としての自らの成長が支えられていることに学生たちは気づき、医療人が備えるべき謙虚に学ぶ姿勢をも身につけるであります。

以上のように、人体解剖学実習は次世代を担う学生たちがプロフェッショナルへと羽ばたくための第一歩として、誠に貴重な機会となります。ご献体を頂きました方々ならびにご親族の皆様の尊いお志に報いることができますよう、医学・歯学のさらなる発展と将来のリーダーの育成のために日々努力を重ねて参る所存です。

最後になりましたが、献体の会会員ならびにご家族の皆様方の、末長いご繁栄とご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

《特別講演》

「大相撲力士のスポーツ傷害」



社会福祉法人同愛記念病院財団
同愛記念病院名誉院長
東京医科歯科大学医学部卒業

土屋 正光

稀勢の里が横綱になる前後より、若手の力士の擡頭なども相まって、人気の低迷していた大相撲への関心が、近年急激に盛り上がり、毎場所、連日の満員御礼の垂れ幕が下がる盛況が続いている。しかし、稀勢の里はじめ多くの人気力士が、けがでの休場を余儀なくされてもいる。

大相撲は激しいコンタクトスポーツゆえ、外傷・傷害の頻度は少なくない。平成十一年一月、三月場所も多くの上位力士が休場した。そこで、力士のけが予防の対策の一環として、日本相撲協会の意向のもと、三年間大相撲力士の下肢筋力測定を行った。対象は上位力士延べ百十九名であった。その結果、力士は自在に体を動かすには体重は百八十kg以下とすべき。番付を上げる力士の下肢筋力は強い。下肢筋力を強化するところがが少なくなる可能性が示唆された。力士会において結果を報告し、けがの予防には体重に負けない下肢筋力強化の重要性を強調した。

さて、昭和五十七年から平成二十六年の三十三年間に、当科で診断・治療を行った大相撲力士のスポーツ傷害は、一六一〇例五四八三件である。部位別には体幹傷害一四〇三件(二五・六%)、上肢傷害一〇九五件(二〇%)、下肢傷害二八三八件(五一・八%)、と下肢傷

害が過半数を占める特徴がある。

体幹傷害の内訳は、頭部・頸部打撲捻挫七・二%、胸部打撲・背部挫傷四%、腰痛一三・一%（急性腰痛症一・一%、慢性腰痛症八・二%、腰椎椎間板ヘルニア三・八%）である。

頸部では、ジェファーンソン骨折（頸椎軸圧負荷によりおこる、環椎（第一頸椎）の破裂骨折）治療例で再骨折を起した例を経験し、頸椎骨折には頸部筋力も関与していると考え、頸部筋力の検索を行った。その結果、頸部筋力は、伸筋に比べ特に屈筋が弱かった。体重比では、アメリカンフットボール、ラグビー選手より明らかに弱い。頸部障害を減らすには頸部筋力、特に屈筋強化が必須であることが示唆された。

腰痛は単一疾患としては最も多い。大きな体格の力士同士の、激しい格闘技を物語っている。腰痛力士のX線検索では、腰椎分離症が検索したX線像の四三・八%に認められ最も多い。次いで椎間板膨隆（三九・三%）、潜在性脊椎椎板裂（一四・九%）、椎間板狭小化（一三%）、シヌモール結節（一三%）、椎体縁不整（一〇・一%）が見られた。検索した力士の平均年齢二〇・二歳、経験年数平均三・九年と、比較的短期間にこれらの所見が見られることは、力士の腰部には大きな負荷がかかっていることが推察される。腰痛予防には腹・背筋強化、特に腹筋強化が重要であり、まわしは腹圧を挙げるコルセットの効果もあり、きつく締めるよう指導している。

上肢傷害の内訳は、肩関節五・八%、肩鎖関節二・六%、肘関節四・五%、上・前腕一・二%、手・手関節五・八%である。反復性肩関節脱臼十六肩に制動術を行った。治療法に変遷はあるが、激しい格闘技に耐えられ、厚い筋肉に囲まれた肩関節展開の困難さより、烏口突起の先端を、筋肉をつけたまま、関節窩前縁に移行する方法で良好な手術成績を得ている。

下肢傷害の内訳は、膝傷害二七・一%（半月板・靭帯損傷一三・二%、膝捻挫・打撲七・一%、膝蓋骨脱臼一・三%）、足・足関節

一五・四%、下腿蜂窩織炎四%、大・下腿打撲・肉離れ三・五%である。

膝傷害のうち膝前十字靭帯損傷は、土俵上で膝が内側に入り、自重と相手力士の体重が加わり、下腿内旋を強制されて受傷する。膝前十字靭帯断裂は、膝機能障害が大きく再建術を積極的に行っている。膝前十字靭帯再建術は百十四件行った。再建法に変遷はあるが、現在は骨付き膝蓋腱を用いた一重束再建術を行っている。靭帯再建により膝の安定性は良好に改善されるが、再建術を行った場合三場所の休場を要する。このように膝前十字靭帯再建術は復帰までに時間を要するため、再建術は年齢の若い、番付下位の力士に最も良い適応がある。予防には股関節外転、また膝が内側に入らないよう、股関節開排筋力の強化が必要で、すり足、四股は理にかなった稽古法である。

大相撲は激しい格闘技であるのだけども多い。土俵上の白熱した取り組みは見るとに感動を与える。しかし本場所の土俵だけがして現在には特に救済処置はない。平成十五年までは公傷制度があった。公傷制度下では治療に二カ月を要するけがは公傷となった。この規定があいまいなため、平成十六年より公傷制度は廃止された。しかし本場所の取り組みで受傷し、治療に時間を要する膝前十字靭帯断裂、足関節脱臼・骨折、膝蓋腱断裂等は公傷にて救済し、力士が取組みに、より打ち込める環境整備も必要と考える。

以上大相撲力士のスポーツ傷害につき現状を述べた。



二村准教授からの土屋先生のご略歴紹介

《東京医科歯科大学関係行事》

解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式

平成三十年三月六日（火）午後二時より、東京医科歯科大学M&Dタワー二階の大講堂に於いて、大学からは、役員、教職員三十八名、医学部医学科学生二年生、歯学部歯学科学科学生二年生が出席し、会場にはご遺族など合わせて約四〇〇名の方々が参加して、第三十四回東京医科歯科大学解剖体御遺骨返還式及び感謝状贈呈式が執り行われました。

開式の辞が述べられたあと、この一年間に成願された一〇九柱の御霊に参加者全員が黙祷を捧げました。続いて、吉澤靖之学長から本学のより良き医療人育成の為にご献体された方々のご遺骨返還に際しての挨拶がありました。

その後、ご遺骨の返還が行われ、祭壇より手渡されたご遺骨が、解剖学教授、准教授、学生によりご遺族一人一人に返還されました。

次いで、学生代表の医学部医学科二年生飯村可菜から感謝の言葉が述べられました。



ご遺骨の返還

引き続き、佐藤達夫献体の会会長の挨拶がありました。

次いで、文部科学大臣感謝状贈呈式が行われ、ご遺族の方々一人一人に大学職員から感謝状が手渡しされました。

終わりに、解剖学教室の秋田恵一教授からご遺族の方々に御礼の挨拶があり、御遺骨返還式及び感謝状贈呈式は滞りなく終了しました。

ご挨拶



東京医科歯科大学

学長 吉澤 靖之

本日は本学のより良き医療人、知と癒しの匠育成の為にご献体くださいました方々のご遺骨返還式を執り行うにあたり、大学を代表して御礼を申し上げます。

まずご遺族の皆様にはお忙しい中お越し頂き、心より感謝申し上げます。

さて、今日の医学・歯学の進歩は目覚しく、様々な領域で新しい知見が累積し、その上テクノロジーの進歩と相俟って、新しい医療技術が開発され、人々の健康と社会の福祉に大きく寄与してまいりました。しかし一方では、ヒトの生命そのものに携わる医療人には、今まで以上に社会的責任や医療倫理が問われております。

医学生・歯学生在が専門課程に進み、ヒトのからだに直接接する最初の経験が、人体解剖学実習であります。ご遺体を通して人体の構造や機能の基礎を学びつつ、生命とは何かに思いを馳せ、その神秘性と尊厳に触れることとなります。

まず学生は戸惑い、畏れを感じるようになりますが、やがて奇跡とも思えるその精緻な人体の構造を知るにつれ、これまで経験したことのない生命に畏敬の念を抱くこととなります。

同時に、死後に自らの御身体を医学・歯学の発展のためにささげるという、献体という行為が如何に崇高なものであるかを感じ理解することとなります。

そして、そのことに心から感謝しつつ、医療人としての教養と感性を研ぎ澄ましてまいります。

医学の進歩とともに、医の倫理・生命倫理が強く叫ばれておりますが、解剖学実習に献じられたご遺体は、無言のうちに「医の倫理とは何たるか」を学生に語りかけて下さっているのです。

人生の最後に当り、本人の献体という崇高なご遺志を尊重し、今日まで、ご遺体を私どもに委ねて下さいました、ご遺族の皆様の寛大さと寛容に、深く感謝の念と敬意を捧げる次第であります。

私ども、医学・歯学教育に携わるものならびに学生たちは、皆様のこの尊いお気持ちをお誓いするとともに、ご遺体下さいました方々のご冥福をお祈りしつつ、深甚なる感謝を込めて、私の挨拶とさせていただきます。

ここに、医学・歯学の教育・研究・臨床の発展のために、一層の精進を重ねることをお誓いするとともに、ご遺体下さいました方々のご冥福をお祈りしつつ、深甚なる感謝を込めて、私の挨拶とさせていただきます。



ご遺骨返還式での学長挨拶

ご挨拶



東京医科歯科大学献体の会会長

佐藤 達夫

ご遺族の皆様、本日はお忙しいところ、また寒さ厳しきなかをご足労いただきましてまことにありがとうございます。ご遺体なされた方々のご遺骨が、最愛のご遺族の皆様のもとに教官の先生方と学生諸君から無事お返ししていただきました。我々もほっとしているところでございます。献体の意義につきましては学長の挨拶、また長期間ご遺体に寄り添って実習に励んだ学生の御礼の言葉で十分に言い尽くされておりますので、私のつたない言葉を付け加えることは遠慮いたしたいと存じます。

さて献体とは、将来の医学・歯学・医療の進歩を願って、自分の死後の遺体を捧げることではありますが、自分に何の見返りも期待しないことが最大の特徴であります。このことは、献体を志す者がつねに銘記しておくべき献体の倫理であります。しかし、献体をお受けする側がこれに甘えてはなりません。大学と教官と学生は、このような尊い献体を最大限に生かして学習を進めることによって、はじめて献体が生かされることを忘れてはなりません。実際、献体思想が発展するなかで、解剖学実習における教育法も充実化の一途をたどり、学生諸君の学習意欲も格段に向上してまいりました。それは、献体なされる方々の尊い美しい心を、教官と学生がしっかりと受け止めてきたからに他なりません。

それだけではありません。複雑な人体の構造に潜む美しい仕組みを

知る過程で、学生のなかに自他を問わず人びとの健康を守り、病める人々を救わなければならないという意識が高まり、医療倫理感も育成されてくるからであります。その意味で、献体なされた方々は医学・歯学の教育に参加され、大きな成果をあげられたのでありまして、心から敬意を表する次第であります。

本日は、大学の教育に関する高い見識を学長からお伺いし、また献体なされた方々のご遺志を学生諸君がしっかりと受け止めて勉学に努力していることを知り、大いに感じいいところでございます。

さて、献体が他のボランティア行為と異なる特徴として、ご希望がかなえられるときには、ご本人はすでにこの世におられないということがあげられます。ご本人の究極の目的が達成されるには、ご遺族の方々のご理解とご助力が絶対に必要であります。最愛の肉親が亡くなった悲しみのなかで、ご本人の希望をかなえてくださいましたご遺族の皆様にご感謝と敬意を表する次第でございます。

本日はご出席いただきまして、まことに有難うございます。



解剖学教室教員からご遺族へ感謝状贈呈

感謝の言葉



東京医科歯科大学 学生代表

医学部医学科 第二学年 飯村 可菜

本日、ご遺骨返還式にあたり、ご献体くださいました故人の皆様ならびにご遺族の皆様にご東京医科歯科大学の学生を代表いたしまして感謝の言葉を申し上げます。

私は物心ついた頃から「医師となり、患者さんやその周りの方々の幸せに貢献する」ということを目標としておりました。その目標に一歩近づいたように感じ、期待に胸を膨らませていた入学式の日が、鮮明に思い出されます。それから教養科目を中心に学んだ一年を経て、心待ちにしていた基礎医学の授業が始まりました。ヒトの出生までの過程を学ぶ人体発生学、生命現象を機能的側面から学ぶ生理学など、どれも新鮮で興味深い内容でした。また、理想とする医師になるために必要なことを学んでいるのだという自覚のもと、毎日の講義に身が引き締まる思いでした。

その中で、四月から人体の構造、構造同士の位置関係を学ぶ人体解剖学の講義を受け、人体解剖学実習に取り組みしました。講義の中では、教科書や講義資料の図を参考にして人体構造の理解に努めました。しかしながら、二次元でのイメージに基づく理解は困難に感じられ、どこか自分の中で消化しきれないような感覚がありました。そこで、実習にしっかりと取り組み、疑問を解消したいという気持ちが強まりました。

人体解剖学実習初日、ご遺体を目前にし、それまでに経験したことのない、息の詰まるような感覚に襲われながら、黙祷を捧げました。

それは、ご献体くださった故人の皆様への感謝と畏敬の念、人生で最も身近に感じた「死」に対する想い、医師になるために実習から少しでも多くのことを学ばねばという使命感など、様々な強い感情が入り混じった状態でした。

それ以来、毎回の人体解剖学実習に緊張感をもって臨んでおりました。ひとつひとつの構造を自分たちの手で追求することによって、教科書や講義で学習した内容と共通する点を確認できました。加えて、個人差が顕著に見られる点を発見したり、構造の空間的なイメージが難しかった部分をしっかりと理解できたりと、一回一回の実習から非常にたくさんのご恩恵を受けて頂きました。

人体解剖学実習を終え、将来医療者となるうえでの自覚と責任、覚悟が一層確固たるものとなりました。ひとりひとりの患者さんに真摯に向き合うこと、常に探求心を持ち続けること、今ここにある生と、いつか訪れる死に対し、目を背けずに考えること。こうしたことの大切さを実感しました。献体してくださった方のご意志や、ご遺族の皆様方のご理解ご協力があつて初めて成り立つこの貴重な経験をしっかりと胸に刻みこみ、『知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する』という東京医科歯科大学の基本理念の実現に向けて、今後とも邁進してまいりますことを、故人の方々並びにご遺族の皆様にお誓いいたします。

終わりに、献体してくださった方のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様方に心より御礼申し上げ、感謝の言葉とさせていただきます。

東京医科歯科大学篤志献体活動の報告会ならびに 第四十三回東京医科歯科大学献体の会総会

平成三十年五月十九日(土)午後一時より、東京医科歯科大学M&Dタワー二階の鈴木章夫記念講堂において篤志献体活動の報告会ならびに東京医科歯科大学献体の会総会が行われました。

この日は気温も二十五度を越す夏日のなか、会員一三六名、同伴者十七名の参加がありました。

総会に先立ち、二村准教授の司会で篤志献体活動の報告会があり、全員が黙祷の後、解剖学教官の紹介と秋田教授の平成二十九年度献体成願者は一〇七名で、平成三十年三月三十一日現在の生存会員数は二、四八一名であることなどの活動の現況報告がありました。

続いて献体の会の広田順子編集委員の司会で総会に移り、北川昌伸医学部長と佐藤達夫献体の会会長からご挨拶をいただきました。

さらに磯秀夫理事より去る三月二十七日に東京・武蔵野市の日本医科大学武蔵境校舎・日本獣医生命科学大学で開催された篤志解剖全国連合会総会の参加報告がありました。

その後、佐藤達夫先生が新会長に選出され、新会長から今後二年間の新役員が紹介されました。



献体の会総会受付

この後、一〇分間休憩の後、「大相撲力士のスポーツ傷害」と題して本学の卒業生でもある土屋正光同愛記念病院名誉院長の講演がありました。かなり専門的なお話でしたが、たまたまこの時期は大相撲夏場所が開催中であり、スライドを交えての講演は時宜を得た題材でした。最後に、会員から二、三の質疑応答があり、午後三時過ぎに総会は無事終了しました。



会員の方による作品の展示

平成三十年度 東京医科歯科大学解剖体追悼式

平成三十年十月二十五日(木)午後一時より、築地本願寺において東京医科歯科大学解剖体追悼式が行われました。秋晴れのもと、遺族の方々、献体の会員、解剖にあたった学生が本堂に集いました。

まず、今年度に誓願成就された二九六柱の氏名が読み上げられました。お名前は、それぞれの方々の人生の象徴であり、参加者はみな、その名前で過ごされた方々の人生に思いを馳せました。

追悼の辞は東京医科歯科大学学長の吉澤靖之先生から、続いて来賓追悼の辞は東京医科歯科大学献体の会会長、佐藤達夫先生より述べられました。

学生代表の夏博正さんからは「解剖させていただいたご遺体は、自分達の最初の患者であり、未来の患者と接する際の原点となります」との言葉が述べられました。医学を志す若い意志に触れた感動に、静かに目頭をハンカチで拭う姿も見られました。

出席者全員が順に献花した後、東京医科歯科大学歯学部長の興地隆史先生よりご挨拶があり、閉会となりました。

休憩をはさんで築地本願寺による追悼法要が続き、参加者によるご焼香の後、「死は終わりではなく、浄土に生まれ変わりを仏となること」とのご法話をいただきました。午後三時過ぎに終了となりました。



学長による追悼の辞

追悼の辞



東京医科歯科大学学長 吉澤 靖之

本日ここに、国立大学法人東京医科歯科大学解剖体追悼式を挙げるにあたり、解剖学・病理学並びに法医学解剖に、ご遺体を捧げてくださいました二百九十六名の方々に対し、謹んで哀悼の意を表すると共に深い感謝の念を捧げるものであります。

人体解剖学は、医学・歯学の次世代を担う医療人の育成に当たって誠に重要な意義を持っております。

解剖学実習では、学生はご遺体を通して人体の構造や機能の基礎を習得しつつ、初めて、死という逃れようのない生命の尊厳に直面します。これを機に、学生は「自分自身が快適に生きたい」という受動的・利己的な意識から、「自分以外の人が快適に生きるために」という能動的・献身的な思念に変わり、自分たちは「世のため人の為に医学・歯学の道で研鑽を積むのだ」と、医療人としての決意を新たに、自律していくこととなります。

病理解剖では、担当の医療チームが現代医学の叡智を駆使し、全力を挙げて治療に臨んだにもかかわらず、効を奏さず、ご遺族の願いも虚しく、帰らぬ人となったご遺体を解剖させていただきました。ご遺体より提供された病巣や臓器の精査と治療結果から知り得る新しい知見は、同じように悩む他の大勢の患者さんの治療あるいは発症予防に役立てることができる貴重な示唆を与えてくださいます。

また、法医学解剖は、黙して語らぬご遺体の死因を特定し、時には

犯罪性の有無を明らかにして、社会の秩序の維持に役立つものであります。

このように、それぞれのご遺体は、それぞれの立場で医学・歯学の進歩に光明を投げかけて下さり、そして人間教育の上で、何ものにも変えがたいご教示をいただき、学生の蒙を啓いてくださいます。

医学・歯学の発展のためとはいえ、自らご遺体を献体される崇高純粋な精神、そしてご遺族の示される深いご理解とその寛容なお心に、私どもは改めて深甚なる感謝と敬意を表し、また、心を新たにし、一意専心医学・歯学の教育・研究に一層の精進を重ねることを、固く誓うものであります。

東京医科歯科大学は、菊薫る本日、ここにご遺族並びにご列席の献体の会会員の方々、そしてご来賓の方々とともに、ご献体を賜りました故人の方々に偲び、ここに謹んで追悼の辞といたします。

平成三〇年一〇月二五日



献花の様子



追悼式々場の築地本願寺

追悼の辞



東京医科歯科大学献体の会長
東京医科歯科大学医科同窓会理事長 佐藤 達夫

本日、ここに平成三〇年度東京医科歯科大学解剖体追悼式が行われるに際し、来賓として追悼の言葉を申し上げます。

今を去る二六〇年ほど前の一七五四年に、京都所司代の許しを得て山脇東洋により我が国初めての人体解剖が行われました。東洋は、古くから伝わる五臓六腑説が事実とははなはだしく異なるのではないかと疑い、実際に、自分の目で確かめようとしたのであります。彼は所見を蔵志という本にまとめて五年後の一七五九年に出版しました。有名な杉田玄白の解体新書に先立つこと一五年であります。東洋や玄白の業績は、どれほど讃えても、讃えすぎるといふことはない偉業であることは論を俟ちません。しかし残念なことに当時は、彼らが直接執刀することは禁じられており、東洋が行ったのは見学による観察に過ぎなかつたのであります。

一方、一五、六世紀の西欧の医学者、解剖学者そしてレオナルド・ダ・ヴィンチのような芸術家達は自らの手を下して人体から学ぼうとしたのです。それでこそルネッサンスと言えましょう。病気の原因を追及する病理解剖も、また、亡くなられた方の人権を擁護する立場の法医学解剖もこの流れの上に育ってきたのであります。さらに、人体の働きをあつかう生理学でさえ、はじめは「生きた解剖学」と呼ばれていたことを思い起こせば、人体解剖こそ近代医学の原点であります。

現代の医学生・歯学生はご遺体を直接解剖させていただいており、

人体の構築を会得するのに自分の五感をフルに働かせて学習しております。それは、受験勉強では決して経験できなかった彼らのルネッサンスであり、良き医療者に育つ第一歩なのであります。しかし、解剖学実習を行わせていただくことは並大抵なことではありません。対象がわれわれの同胞の身体そのものであり、ご遺族の、社会の、そして行政の理解があつてはじめて可能となるものだからです。だが、人体解剖そのものが、次世代の健康に寄与したいという尊い願いに基づいていることに、広い理解が得られるようになりました。そのような考えが多くの人々の心に根付きました。それが献体思想であります。このようにして人体解剖は、人体を実証的に知るといふ科学的態度を超えて、明日の医療のための市民参加という道を開いたといえます。

さて、山脇東洋は解剖の対象となった故人に「夢覚を祭るの文」を捧げています。ご遺体の内部を観察させていただくことにより自分たちの夢がさまされたという意味でありましょう。解剖体追悼式は、医学・歯学・医療科学を学ぶ若い学生たちが新しい人間科学を創造しようとするときに、立ち戻るべき精神的拠り所といえるのです。

われわれは、献体なされた方々の優しい気持ちと真剣に受けとめなければなりません。幸い、東京医科歯科大学の学生諸君は優れた教職員の指導と支援のもとに、皆様の尊く、そして優しいお気持ちをしっかりと受けとめてくれております。献体という小さなルネッサンスが、これから医療の実践に羽ばたく学生達に、知識獲得という枠を超えて心に膨らみを与えてくれると信じるものであります。献体者の方々がなされたお仕事は実に大きなものがあります。心から敬意を表します。あわせて、最愛の肉親を失った悲しみの中で、故人の尊いご遺志を、そして主治医の願いを尊重してくださったご遺族の皆様感謝申し上げます。

平成三〇年一〇月二五日

追悼の言葉



東京医科歯科大学 学生代表

医学部医学科 第二学年 夏 博正

はじめに、ご献体して下さった方々、並びに、ご遺体を私たちに預けてくださいましたご遺族の皆様に対し、東京医科歯科大学の学生を代表しまして心より感謝申し上げますとともに、故人の方々に対し謹んで哀悼の意を表します。

本日このような式典を迎え、ご遺族の方々に対面し、感謝の意をお伝えできると大変嬉しく存じると同時に、解剖実習がこれほど多くの方々を支えられているものなのだとこのことを、身を持って実感しております。

私たちは五月から七月の約三ヶ月に渡って解剖実習を行ってきました。毎回の実習には無駄な要素が一切なく、新たな学びの連続でした。当時の記憶が鮮明に蘇り、学んだことが体から溢れ出てくるような感覚は、実習が終わって三ヶ月が経った今でも色褪せることはなく、この解剖実習がどれだけ私たちの心中に強く刻み込まれた体験であったかを私たちに知らせてくれます。

実際に解剖を行う一ヶ月ほど前、私たち学生は一つの講義室で、解剖実習に関する注意事項を先生よりご指導いただきました。その際に先生は、東京医科歯科大学の献体の会についても紹介してください、故人の方々、並びにそのご家族、ご親族の方々がかつてどのような思いで献体に同意して下さったのかを伝えてくれました。

初めてこの説明を受けた時、私は強い不安に駆られたのを覚えています。それから実習が始まるまでの間、私は、医学、歯学の発展を願

い、自らの身体を提供して下さった方々の崇高な意思に対し応え切ることができのだろうかかと自問を繰り返していました。

そして、その不安は実習の初日になっても拭い切ることができませんでした。白衣に着替え、実習室に入り緑のシートがかけられたご遺体を見た時、様々な思いが私の中で混ざり合っており、どうして良いか分からずしばらく呆然と立ち尽くしていました。私はそれまで「死」を身近に触れる機会がなく、ご遺体と実際に対面することに対しある種の恐怖を抱いていたことを認めない訳にはありません。

しかし、実際に解剖を始めるその瞬間、ご遺体の崇高な意思が私の体に入ってくるような感覚を覚えました。献体に同意して下さり、今私の前に横たわっている方も生前、献体を行うことに対して様々な感情を持っていたに違いありません。そこには、実際に解剖を行う私たち学生に対する期待や不安も含まれていたことでしょう。しかし、最終的に、これからの医学を担っていく私たちを信頼なさって、私たちの前に姿を見せて下さったのです。そのような美しく確固たる意思に対して、私も学習を深め、たえず研鑽を積み、この身を医学に捧げることのできない訳にはいきません。こう思ったとき、初めて解剖と向き合う覚悟ができました。

私たちが医学部に入り、初めて受けた講義は、人体の構造を理解し、それを解剖によって確かめるためのものでした。私たちの医者としての歩みは、解剖から始まったのです。また、実際に私たちが解剖した方々は、これからの医者人生の中で、いわば最初の患者さんであったと言えるでしょう。そして、実際に解剖したときに感じた、その方を理解しようとする姿勢が、自分に刻み込まれ、これから様々な患者さんと接する時の根本的精神となることを確信しております。

私たちはこれから医師・歯科医師として多くの人々を治すことが使命になります。すなわち、私たちの人生と運命は、そうした未来の大勢の患者さんとも結ばれているのです。そのことを考えると、自分に

与えられた時間を無為にしてはならず、これからの患者さんのために研鑽を積み重ねなければならぬという思いで身が引き締まります。これからも、初めて解剖した時のことや、献体してくださった方への感謝を忘れることなく、そして、献体してくださった方の、医学、歯学の発展のために、自らの体を提供するという崇高な意思を無為にすることなく、患者を救い、研究による新たな発見をして恩返ししていくため、今後一層勉学に励み続けることを、故人の方々とご遺族の皆様にお誓いいたします。

最後になりましたが、ご献体をしてくださった故人の皆様を偲ぶとともに、ご遺族の皆様のご健康とご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。

平成三〇年一〇月二五日



《篤志解剖全国連合会関係行事》

篤志解剖全国連合会
第四十二回団体部会・大学部会合同研修会

平成三十年三月二十六日(月)午後一時より、武蔵境にある日本獣生命科学大学大講義室にて、篤志解剖全国連合会第四十二回団体部会合同研修会が開催されました。桜が美しく咲き誇るなか、北海道から沖縄まで、全国の団体部会・大学部会二一七名が一堂に会しました。

今回のテーマは「これからの実務」。司会は坂井建雄教授(順天堂大学、篤志解剖全国連合会常任理事)、佐藤巖教授(日本歯科大学、篤志解剖全国連合会常任理事)が務められました。

開会に先立ち、第十回の篤志献体賞授与式が行われ、日本篤志献体協会佐藤達夫会長より河西達夫名誉教授(弘前大学)に賞が授与されました。

その後講演が三題続きました。

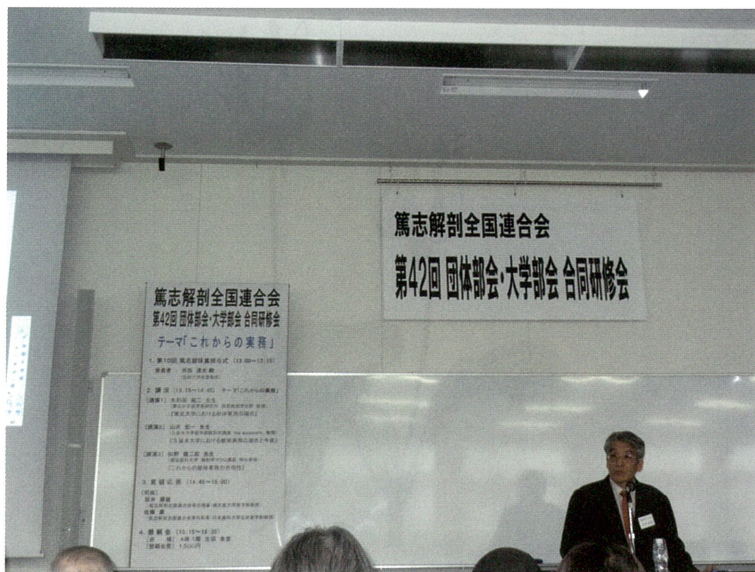
講演1『東北大学における献体実務の現状』について、大和田祐二教授(東北大学)が東北医科大学と東北薬科大学の二大学三学部の献体数を確保するために、同意者の署名を三名から二名へと改正したり、積極的な広報活動を行った結果、献体登録者の拡大につながったとの報告がありました。

次に『久留米大学における献体実務の現状と今後』について、久留米大学医学部解剖学講座(肉眼・臨床解剖部門)教授山本宏一先生からは、三十カ所を超える見学希望校の多さと、相反する献体登録者確保のご苦労が語られました。医学生を対象とする全体解剖の時間を積極的に増やす一方、ご自分も登録者であるお立場から、ご遺体に対する礼を失する安易なサージカルトレーニングの導入に対する懸念も語られました。

最後に『これからの献体業務の方向性』について、獨協医科大学 解剖学マクロ講座 特任教授 松野健二郎先生からご報告がありました。一時は「模型で良い」と献体解剖に強い逆風が吹いた時代があったのが、サージカルトレーニングの必要性が増す中、献体制度が新たな意義を持つて医学教育の中心的位置づけになり、また末期癌などで全体解剖に適さないご遺体も部分解剖として篤志を活かすことのできる可能性が開かれることなどが示されました。また、移植コーディネーターのように、献体コーディネーターの育成という提案には、会場から深い同意が寄せられました。

各大学とも、それぞれに苦労をされつつも、献体者の篤志を尊重・重視している様子がかがわれました。

会場から活発な質疑応答があった後、司会のお二方より「各大学で、献体の理念を失しない実施がなされていることが改めて示された」との閉会のご挨拶があり、午後三時過ぎに閉会となりました。



ご講演の様子

第四十八回篤志解剖全国連合会総会

平成三十年三月二十七日（火）午前十時から、前日と同じ会場で、篤志解剖全国連合会第四十八回総会が開催され、白菊会、献体の会など二三名の参加者がありました。

会議は天野修明海大学教授の司会で始まり、開催に先立ち、参加者全員により、献体成願された方々に対して黙祷をしました。

次に松村讓兒篤志解剖全国連合会会長の挨拶、開催大学である日本医科大学瀧澤俊広教授の挨拶に続き、次の来賓の挨拶がありました。

鴨下一郎、三ツ林裕巳、長谷川嘉一各衆議院議員、羽生田俊、櫻井充、関口昌一各参議院議員、西田文部科学省高等教育局医学教育課長、松下武蔵野市長、弦間昭彦日本医科大学大学長、阿久澤良造日本獣医学命科学大学学長、岡部日本解剖学理事長、小澤第一二三回日本解剖学会総会・全国学術集會会頭（日本医科大学大学院教授）。なお、以下の三人は都合で欠席されました。横倉日本医師会会長、堀日本歯科医師会会長、小池東京都知事。

その後、第一一回献体協会賞（トラベルアワード）授与式があり、四人に賞が授与されました。

次に、議長選出の後、後述の事項が報告されました。

- 一 平成三十一年度理事選出結果
- 二 平成二十九年度会務報告
- 三 調査委員会報告
- 四 財政に関する委員会報告
- 五 第四十二回団体部会・大学部会合同研修会報告
- 六 第三十五回献体実務担当者研修会報告
- 七 公益財団法人 日本篤志献体協会報告
- 八 その他

続いて協議事項として

- 一 平成二十九年度収支決算承認について
- 二 平成二十九年度監査報告
- 三 平成三十年度事業計画（案）について
- 四 平成三十年度収支予算（案）について
- 五 新会長、新役員承認について
- 六 その他

について資料に基づいて協議が行なわれ、質疑応答の後いずれも原案どおり承認されました。

その後、次回の開催大学である影山日本歯科大学新潟生命歯学部教授から挨拶があり、最後に坂井理事の閉会の挨拶があり無事閉会しました。



《会員寄稿》
【随筆】

日本国医療向上に感佩かんぱい

3186 三浦 教子

献体の会会報に四十一号、四十三号に寄稿され、「私の心の財産」となりました。又、この記事を読んだ友人、知人が少しずつ献体の必要性を理解してくれた事は又、一ツの心の財産が増えました。今回更に胸にしみた「感動の秘話」をお伝えします。二〇一七年七月に、ある大阪の法人より、タイ国の招待と友好を命ぜられ、昼中四八℃の中必死でした。ちょうど「ラーマ九世 プミポン」国王の葬儀の最中で、タイ国は勿論、世界中の人々が参列し、涙、涙でした。国王はタイ中まわり生活を豊かにと自ら強い意志で戦ってきたと聞きました。チャクリー・マハー・プラサート宮殿にて安置され、毎日葬儀が行われていて平均二時間待ちの参列者の長い行列でした。私も参加しました。そしておどろいたことに「国王」の遺体は、一年間ある方法で保存し、「たしか二〇一七年十月」に火葬されたと耳にしました。私は通訳にたづねました。タイ国は仏教国で遺体を「切りきざむ」という事はできないと…こわい顔して語りつづけました。タイ国民は「一般人は」病院へは行けない行かない。よほど裕福な人しか。日常は、先祖代々の薬草を各家庭でつくり保存している。日本では考えられず、一般人の人間が亡くなると「土葬」が常でした。昔の日本もたしかそうでしたね。さらに私は事情をたづねたら特別の人間（つまり研究）したい人の場合は、解剖したら、お寺に移送し、「荼毘」に火葬するらしく、疑問をかかえながら「日本」に戻り、私なりの視点で献体登録者求めてはげんでおりました所、歯学部の方も三十年以上お世話になって

いまして、通常M医師グループの中に「タイ国」より一人の女性二十代が留学生として、学んでいると聞き、仲間にあたねることができました。本人は「インプラント技術」を学びに来ましたと、日本の技術は世界でも優秀だと、そこで又、又、うれしいことに、日本ではこの「東京医科歯科大」でタイ国で教えられ、涙ぐましい努力し、お金を作り、歯の大切さを世界中に広げたいとこう語ってくれ、仲間も強い応援団ついているし有名でかつ学生一人一人大切に、将来日本の国を「技術向上」に力をそそいで下さるM医師にも「大きな声」で「感佩」。日本国のため、世界平和のため、私の命も将来献体でお役に立てること祈りつつ、第三弾の「資料」完成し、日本国の心ある方の献体についての大切さを理解してもらおうことを強く希望致します。



(撮影：三浦教子)

健体を献体

還暦プラス十八年、大学入学

3941 吉本 亮三

還暦十八歳の今年四月、立教セカンドステージ大学に入学しました。五十歳以上のシニア層を対象として「学び直し」「再チャレンジ」と「異世代共学」をサポートするために開設された学習の場。同じ世代の仲間と共に体系的に学び、多様な社会参加の担い手として自分をデザインすることができ、「学びの情熱尽きることなく」と。

この社会人学び直し「大学の履修証明制度」は、二〇〇七年学校教育法改正で導入されたもので、一定水準を満たす社会人向けプログラムなどで学んだ人に「履修証明書」が発行される。立教セカンドステージ大学は二〇〇八年度創設で開校十年目、今年は十一期生である。

四月三日入学式、五日履修科目届、十一日授業開始、八科目十八単位以上修得へ。異世代共学に全学共通科目の選択も可。

受講生は一年間休職して、夫婦一緒に、定年となったので、起業を目指して・・・と多様。通学も徒歩で、電車一本で、鎌倉から二時間、群馬から新幹線利用で二時間半で木・金連続の時は東京泊。年齢もやっと五十歳から終活の者まで。勿論小生が最高齢である。

終わった人???!!

六月十九日に彩の国いきがい大学公開学習。作家内館牧子氏講演「定年後の人生 夫そして妻―小説『終わった人』から―」があった。定年後の過ごし方への提言。内館氏は五十四歳で東北大学文学部入学、

宗教史を学び、十八歳の学友とのキャンパスライフを楽しそうに講演していた。そして、現在も東北大学相撲部総監督で楽しんでおられる。

受講科目「最後まで自分らしく」、シラバスでは成績評価方法「平常点およびレポート試験の総合評価」となっていたが、二十一日驚愕の掲示。テーマ「どのように『最後まで自分らしく』生きたいか、又は逝きたいか」、六〇〇〇字程度、提出七月六日。毎回講義終了時にA5判リアクションペーパー提出していたのに厳しすぎる。又夏期集中講義では事前レポート提出の科目もある。退職後の諸課題は「ボチボチ」を持論としていたが、ここでは通用しない。

昨年、彩の国いきがい大学グループ学習のテーマ「認知症とコミュニケーション」認知症予備群、我々のなすべきことは」と設定した。運動、知的活動、コミュニケーションとの結論を導いた。その実践がこの立教セカンドステージ大学での、学びとゼミ仲間との異世代コミュニケーションである。

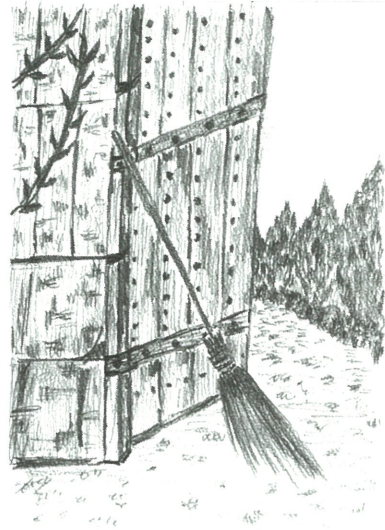
上京後、働きながら学んだ夜の大学。その後通信教育で卒業した社会福祉学科、いずれもキャンパスライフはなかった。最新機能を備えた図書館、キャンパス内ラウンジ・コーナー・廊下等各所に設置された多数のパソコン。それを使えるよう昼休みや五時限終了後のワードエクセル メール パワーポイントの入門講習（現役学生が講師）のメディアセンター・・・ こんな学びの場もあったんだ。

暮れなずむ五時限終了の六時が過ぎても池袋キャンパスは人があふれている。図書館もメディアセンターも。

修了論文テーマ「献体登録制度と登録者の実態」(案) の作成・提出も大きな試練だが、終活への一つの課題としよう。

来週提出レポート、「どのように『最後まで自分らしく』生きたい

か、また逝きたいか」については、「健康に生き、健康で逝く」、そして「健体を献体する」と、まとめた。



病氣の内に三十年

4054 衣笠 紀子

私が最初に病名を付けられたのは、水中毒で、意識不明になった時からです。自分が嫌いで、十九歳の時から思い続けた人にも死なれ、後を追って死にたいという思いと、もし自分の様な者でも生きていて良いなら、水だけ飲んでいても生きられる筈だという思いから、食事もなくにとらず、水を飲んだことによります。

医科歯科でのカンファレンスの時、「死んだ人の声が聞こえた。仏様はある。」と言っただけで、妄想性障害という病名が付けられました。その時の先生は、そんな不思議現象等あるわけがないと思っただけでいらっしやる様だったので、わざとそういう言い方をしました。病名を聞いて「やっぱりね」と思いました。それから三〇年あまりずっと病人です。

何回目かの入院の時、主治医が三人つくのですが、私が興奮していたので、主の主治医がなだめてくれたのですが、私の事も分かっているかと思っただけで「もう、いい」と言っただけで席を立ちました。すると三番目の主治医の方が「貴女なら僕の事覚えていて下さると思えますよ」と声をかけて下さいました。その一言で、私の事認めてくれていて、と思いが少しやわらぎました。その後、そのN先生が、私の主の主治医になりました。

その先生には、もう一つ大切な事を教わりました。それは、私がソファに横になりたいと言った時、そのソファは、横になってはいけない物だったので、婦長さんが、止めるのを制して、私がもういいと言うまで横にならせて下さいました。やりたい事を思う存分やる大切さを教えられました。

やりたい事を我慢し、家族のために良かれといった人生では、やはりひびきが出る様です。けれどそれなりに、人間関係の勉強も出来、

患者さんの気持ちも少しはわかる様になり、人生に無駄なものはないとも思う様になりました。

人生全て、自己責任と思っていました。今私が「クソジジイ」と呼んでいる神様の指示により、あっち行って苦労して来い、こっち行って苦労して来いと言われた様な気がします。その苦労の先には、自分にとって必要な物だったと思える時が、きつと来ます。人智を超えた何かの遠大な計画です。

病人をやって来た間に勉強した結果、潜在意識の立て直し、病氣や世の中を良くする一番近い方法だと思えます。一つには、悪感情(何をもって悪というかは、むづかしい所ですが)を消す事、これには顕在意識にのぼらせる事が必要ですが、自分の心の内を深くさぐれば出来る筈です。もう一つは、良い事をうめ込む事。これには、他人の幸せを祈ることが有効だと思います。

優しく、気持ち折れやすい人が病になる様な気がします。自分で自分の事が認められれば、治ると思えます。デンマークの医療従事者の方にも賛同されました。

回りの方々の協力も大切だと思えます。ぜひ自信を取りもどせる様、皆様のお力をおかし下さい。

東京都立水元公園

5184 長谷 久枝

私の家は、東京都と千葉県の間を流れる江戸川から歩いて数分のところ、そして、江戸川から東京都立水元公園に続く「桜堤」と呼ばれる桜並木の隣にあります。

都立水元公園は、二十三区内最大の公園です。

公園のほぼ東側を大場川が流れ、川に向こう岸は、埼玉県の「三郷公園」が大場川に沿って広がっているため、水元公園がより広々と感じられます。

大場川には、春秋の渡り鳥が飛来し、また、水辺に住みついている「ハヤブサ」や「あおさぎ」もいます。

こさぎやおさぎは人によく懐いています。特に釣り人には、寄り添うように近づき、そばから離れません。釣り人は、時々釣れた小魚を、鳥に向かって投げると、さぎたちは上手に受け取って食べています。

さぎたちはばかりでなく、鴨なども人を恐れることなく、陸に上ってきては草の芽などを啄ばんでいます。

私は鳥には詳しくありませんのでよくわからないのですが、珍らしい鳥も多く訪れるらしく、大型のカメラを構えた人たちの姿が、そこそこに見られます。

また、かわせみは公園内の何か所かに巣を作っているの、運が良ければ子育ての様子を見ることが出来ます。

かわせみを写すカメラマンさんたちも、かわせみの巣の近くに大勢集まり、時には「あそこにいますよ」と教えてくださる方もいらっしゃいます。

かわせみがよく巣を作る場所の一つである、その名も「かわせみの里」と呼ばれる施設があります。かわせみの里では毎年、水元公園内

で写した生き物の写真コンテストが行われます。

水元公園に通っているカメラマンさんたちが応募し、上位入賞者の写真が絵葉書きとなって、かわせみの里で売られています。

鳥たちばかりではありません。私の家の隣りに続く桜並木は、南北に伸びていますが、ソメイヨシノだけでなく、山桜、八重桜、あるいは黄色の花を咲かせる「鬱金桜」などもあり、白、淡いピンク、濃いピンク、そして黄色と、さまざまな色の桜を楽しむことができます。

花が終れば若葉の季節です。個人的には花よりも若葉のほうが好きです。私にとっては若葉の季節が最も楽しみな季節です。柔らかな緑が芽生え、そして日毎に色が濃くなってゆく様子を、毎日毎日飽きることなく眺めています。

梅雨が終り、夏になる頃には葉の色は緑を深め、樹の陰は絶好の涼み場所となります。さわやかな風が吹き渡り、木陰から鳥の啼き声が聞こえ、しばし夏の暑さを忘れさせてくれます。

そして秋。桜の紅葉は、年にもよりますが、紅、朱、黄と美しく色づき、紅一色に染まるもの、さまざまなグラデーションを装うものなど、千差万別の艶姿を見せて、美しく風に舞っています。花の季節に勝るとも劣ることない風情です。

何日も舞い散った後、すっかり葉を落として枝だけになる頃には、まっ青な冬空と木枯らしの季節となります。

一年を通じて桜並木は、さまざまな表情を見せてくれますが、どの季節も季節ごとの美しさを持っています。

水元公園に戻れば桜だけではなく、愛らしい花をつける栃の木、百合の木、秋には甘い香りに満たされる桂の林、糸のような細い葉を落とす続けるメタセコイアの林、芝生の大広場や、がまという植物の湿地帯、そして、梅雨の雨にしっかりと咲く花菖蒲、あじさいなどの花や曼珠沙華の妖艶な花、あるいは草莓の可憐な花などなど、どの季節

に訪れても必ず何れかの花に出会えます。

また公園内を歩けば、たっぷりのフィトンチッドを思い切り吸い込むことができます。健康にも効験があると思います。

公園内には人工の川も引かれています。そのうちの1カ所は小石が敷き詰められ、また小さな滝も作られています。夏休みには子どもたちが水遊びに興じ、あるいは親子で小さな川に釣り糸を垂らしています。

人の手が入っているので、全くの自然とはいえませんが、それでも一日中遊べる水元公園は、自然を疑似体験できる場所です。

鳥が好き、魚が好き、花や樹が好き、昆虫が好き、別に何も好きではないけれど芝生の広場に寝ころんで、ぼんやり空をみていたい、どのような方がいらしても、必ず満足できるところ、それが水元公園です。



【詩】

初恋の君にささげる詩

4054 衣笠 紀子

いくつかの出合の中に
 そよ風のように去って行った貴男
 もうお顔を見る事は出来ませんが
 貴男の言葉は真珠のように私を飾る
 苦しみも辛さも思い出と共に乗り越えて
 その輝きが私の人生を照す
 いつはてるかも知れぬ命は
 終わりまでのひと時をもて余す

コアラ

あこがれの方へささげる詩

長き患いの内に
 貴方の一言が私を救う
 認められた嬉しさに
 後の病を楽しむ
 その体験が人を癒し
 思いつくうちに貴方のお顔を
 焼きつける

紀子

香 香 (Xiang Xiang)

5239 岡本 祐子

みんなのシャンシャン
 シンシンママの愛情で
 すくすくと元気に大きくなる
 おてんばシャンシャン
 木登りもお上手ね
 てっぺんでおねんねする
 みんなのシャンシャン
 二歳になれば
 ママとパパとお別れね
 みんなもさびしくなる
 シャンシャンがピンク色だったのは、オキシトシンホルモンである
 「愛情ホルモン」・「幸せホルモン」のあかしなのです。シンシンと
 シャンシャンは、私の理想な母娘関係です。

【短歌】

4963 津田 典男

神田川みなもと近く黄梅の咲き匂うなり畠のかたえ

永久菌二十八本守りきたりたくあんばりばりかめるうれしさよ

春の陽光ヒのあまねく照らす野にたちて君はきかずや生命イソチのいぶき

干柿をかかえて逃げる猿のむれ声はりあげる女をしりめに

春一番黄砂をはこび花粉まき空土色に歩く人なく

5791 石田 信枝

出る杭はうたれしままの嫁業も昔のことと思ひ出遠し

戦中のおやつなつかし干しバナナこわさ知らずに無心に食せし

パーキンソンの夫の介護の我が友は明日への夢もみはてざるなれ

【俳句】

988 真柄 百合子

向日葵ははるかな海を見張る役

追分おいわけは遠しとほしと花南天

花菖蒲暗きところへ咲き出して

不器用な青葉木菟鳴く夜となりぬ

死に至る病やまひありけり罌粟けしの花

【川柳】

4278 鈴木 公代

甘いもの 食べちゃだめよね 食べたいな

中々ね 悩みがないね 悩んじゃう

朝起きて 空が青いね 天気かな

アンコだよ 端午の節句 五月来る

甘いのが好き 笑いが出るわ 止まらない

《東京医科歯科大学献体の会会則》

(名称・事務所)

第一条 この会は、東京医科歯科大学献体の会（以下「本会」という。）と称する。

第二条 本会の事務所は、東京医科歯科大学医学部に置く。

(目的・事業)

第三条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、医学及び歯学の発展と人類の福祉に貢献するために、会員の遺体を無条件、無報酬で東京医科歯科大学に寄贈することを目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 篤志献体に関する広報活動
- (2) 親睦会の開催
- (3) 講演会及び集会の開催
- (4) 会報の発行
- (5) 献体者の慰霊
- (6) その他本会の目的達成のため役員会において適当と認めた事項

(会員)

第五条 本会の会員は、第三条の目的に賛同し献体登録した者とする。ただし、この趣旨に反すること、又は本会の品位を著しく傷つける行為のあるときは、役員会において役員の三分の二以上の議決により、会員の登録を取り消すこともある。

第六条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長 二名
- (3) 理事 若干名
- (4) 監事 二名

2. 理事となる者は、役員会で選考し、総会の承認を得る。

3. 理事の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。

4. 会長及び副会長は、理事の互選とする。

5. 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

6. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときは、その職務を代行する。

7. 理事は、役員会を構成し、会務を遂行する。

8. 監事は会計を監査するほか、役員会に出席して意見を述べることができる。

(会議)

第七条 本会の会議は、総会及び役員会とする。

2. 総会は年一回開会し、会長がこれを招集し、その議長となる。

3. 総会においては、次の事項を審議する。

- (1) 会の運営及び事業に関する事項
- (2) 理事の承認
- (3) その他の事項

第八条 役員会は、会長が必要と認めるとき随時開催し、次の事項について審議する。

- (1) 会の運営及び事業計画
- (2) 収支予算に関する事項
- (3) 会の決算及び事業報告
- (4) その他会長が必要と認めた事項

2. 役員会の議事は、出席者の過半数をもって議決する。

(顧問及び相談役)

第九条 本会に、顧問及び相談役を若干名置くことができる。

2. 顧問及び相談役は、学識経験者、理事退任者の中から理事会に諮り会長が委嘱し、必要に応じ理事会に出席し意見を述べる。

(会計)

第十条 本会の経費は、補助金、寄付金等をもってこれに当てる。

2. 会の会計年度は、四月一日から翌年の三月三十一日までとする。
(その他)

第十一条 本会則の改正は、総会の議を経て定める。

附則

この会則は昭和五十九年四月二十一日から施行実施する。

この会則は昭和六十二年四月十八日一部改正実施する。

この会則は平成十四年四月一日より改正実施する。

《東京医科歯科大学献体の会役員》

会長	八一〇	佐藤達夫
副会長	二八四四	兵頭作一
副会長	二二七二	星野君枝
理事	九二二	宮内美栄子
理事	二七四二	片野尚子
理事	四五四六	橋本保子
理事	四五六二	飯田静夫
理事	四七八五	磯秀夫

《東京医科歯科大学からのお知らせ》

◎住所変更等の連絡のお願い

住所、氏名、電話番号、ご家族の連絡先等が変更になった方はできるだけ早く献体事務室まで、お電話または文書等によりご連絡をお願いいたします。

会員ご本人が遠方へ住所を移される場合には、献体登録を住所地の近くの大学にご紹介する場合がございます。大学からの距離が非常に遠い場合にはお引き取りできない場合がございます。また、お亡くなりになった後に他の大学にご紹介することは、非常に難しいので、住所を移される場合には献体事務室にご相談いただきたいと思っております。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

◎献体手帳について

二〇一九年「献体手帳」をご希望の方は次の要領でお申し込みくださいますよう、よろしくお願い致します。

「献体手帳の申し込み方法」

お名前・会員番号をご明記の上、送料として九二円分の切手を同封の上、郵便にてお申し込み下さい。お申し込みは、お一人様一冊とさせていただきます。

なお、ご家族で会員の方が一緒に申し込まれる場合、二冊分の送料は一四〇円となります。三冊以上の方は事務室へお問い合わせ下さい。

申込先

〒一一三―八五一九 東京都文京区湯島一―五―四五

東京医科歯科大学大学院 臨床解剖学分野内

「東京医科歯科大学献体の会」事務室

電話 ○三―五八〇三―五一四七

《会員のご家族へのお願い》

会員の方が亡くなられた時は、次の順序でご連絡と打ち合わせをお願い致します。

一、大学への電話連絡

◎平日 午前八・三〇～午後五・〇〇

①東京医科歯科大学献体事務局（直通）〇三―五八〇三―五一四七

②東京医科歯科大学（代表）〇三―三八一三―六一一

平日の勤務時間内出来るだけの対応を致しておりますが、直接献体事務局に連絡をいただいた時、学内に出かけている場合がございます。その時には大学（代表）の電話交換手にその旨をお伝え下されば、こちらから再度ご連絡申し上げますので、ご遺族代表者の連絡先及び亡くなられた方の会員番号・氏名・死亡日時をお知らせ下さい。よろしくお願い申し上げます。

◎夜間・土曜・日曜・祝祭日・年末年始

東京医科歯科大学（代表）〇三―三八一三―六一一

夜間、土曜、日曜、祝祭日、年末年始などの場合は、大学の電話交換手にその旨お伝え下されば、担当者の携帯電話に連絡がつく態勢になっております。その際、亡くなられた方の会員番号・氏名・死亡日時・連絡先・連絡者を必ずお知らせ下さい。担当者が学外におります場合には、東京医科歯科大学献体の会の会員であることをすぐには確認できませんので、ご連絡の前に会員であることを再度ご確認頂きますようお願い申し上げます。なお、迅速に対応できるような態勢をとってはおりますが、諸事情（電波受信の状態が悪いところにいる場合など）により担当者からの連絡が遅れる場合がございます。大学から、担当者へは連絡がつくまで対応いたしておりますので、ご容赦願います。

二、大学担当者との打ち合わせ

ご遺族の代表者は次のことを担当者として打ち合わせて下さい。

①大学がご遺体をお迎えにあがる日時

②大学がご遺体をお迎えにあがる場所（住所・電話番号）

③お棺持参の要否

④ご遺族代表者の氏名、住所、電話番号

⑤「解剖に関する遺族の承諾書」等の書類は、担当者が後日お送り致しますので、ご記入、ご捺印をお願い致します。

⑥その他：お通夜、告別式をなさる場合にはその日時・場所をお知らせ下さい。なお、ご遺体の移送は大学がお引き受けし、寝台自動車でお迎えに上がります。

三、ご家族に用意していただく書類

○ご遺体移送のときに必要な書類

死亡診断書の写し 一通

・死亡診断書の写しをご用意下さい。ご遺体を寝台自動車で移送するとき必要になります。

○後日、郵送していただく書類

埋葬・火葬許可証 一通

・埋葬・火葬許可証は担当医師の死亡診断書を添え「死亡届」を市区町村へ提出すると交付されます。

・なお、火葬予定場所には「渋谷区代々幡斎場」とご記入下さい。

※注意事項

次のような場合、献体をお断りすることがありますので、ご了承下さい。

- ① 事故で亡くなられた場合（交通事故死、水死、焼死、災害死など）
 - ② 死亡後、時間が経過し発見が遅れた場合
 - ③ 病理解剖や法医解剖によりご遺体にメスが入った場合
 - ④ 旅行中など、大学から非常に遠い場所で亡くなられた場合
 - ⑤ 大学から非常に遠い場所へ転居され、住所変更のご連絡がないまま転居先で亡くなられた場合
 - ⑥ 死亡後、臓器提供をされた場合
- なお、重症感染症の場合も献体をお受けできないことがありますので、担当者にご相談ください。

《会報製作にあたって》

◎表紙の写真説明

この写真は、神田川にかかる橋の一つ、万世橋から撮影したものです。万世橋は、一八七三年に「萬世橋（よろずよばし）」と命名されたようですが、次第に音読み化して「まんせいばし」と呼ばれるようになりました。この橋の上流には昌平橋が見えます。江戸の時代、万世橋と昌平橋との間にはもう一つ橋がかかっていたそうで、徳川将軍が寛永寺に詣でるときに渡っていたとされています。

写真の左側は、旧万世橋駅です。万世橋駅は一九一二年に開業されました。中央本線と東京地下鉄の両方の駅であったとされています。開業当初、中央本線の起終点でありましたが、東京駅、神田駅の完成が続き、一九三一年に地下鉄駅が、一九四三年に中央本線駅が閉鎖されました。現在は、嗜好性の高いショップやレストランが並ぶ商業施設となっています。

写真の後方には、たぐさんの茶系の建築物が見えます。最も高い建物が、東京医科歯科大学M&Dタワーです。その手前にはヘリポートのある医学部附属病院、さらに手前には記念壁画レリーフが掲げられた総合教育研究棟が見えています。

夜の時間帯には、濃いオレンジ色の街灯が御茶ノ水界隈の歴史を引き立てているかのような雰囲気を楽しむことができます。

◎編集後記

本年五月の第四十三回献体の会総会で新たに理事を拝命いたしました片野でございます。五十代半ばの若輩者ですが、会員歴だけは二十五年を超える長さとなりました。二十五年を長いと感じるか、短いと感じるかは、人それぞれでしょうが、そのような時間の概念を超えて、一瞬が永遠になる、そのようなお話をいたします。

私は、昭和五十九年、十八歳で本学歯学部に入学し、二十歳の時に解剖実習を受けました。百歳長寿者にとって、一年というのは人生の百分の一の時間ですが、二十歳の学生にとっての一年は、その五倍の重みであるだけでなく、未成年者から大人になるという期待と不安で何もかもがおぼつかない、自分で自分のことが分からない、そのような時期に、初めての解剖実習によって受けた衝撃は大きいものでした。将来、何者になるかも分からない、まだ、迷いの中にいる自分なのに、このような自分を信じて、立派な医師・歯科医師になってほしいと、献体してくださった方がいる、そのことが二十歳の自分に医療者として生きる覚悟を決めさせたのでした。そして、私は誓いました。晴れて歯科医師免許を受けたら、自分も次の世代の医師・歯科医師を育成するために役立つよう、献体登録をして、この解剖実習室に戻ってこよう。その言葉どおりに、二十四歳で大学を卒業し、まだ若いのにと反対する両親を説得して献体登録を果たしたのは二十七歳の時でした。

(片野尚子)

献体の会会報編集委員

- 四七八五 磯 秀夫
- 五一八四 長谷 久枝
- 五二三九 岡本 祐子
- 五四八二 広田 順子



連絡先	
発行	東京医科大学献体の会
〒	一一三―八五一九 東京都文京区湯島一―五―四五
電話	〇三(五八〇三) 五一四七
FAX	〇三(五八〇三) 〇一一六
印刷所	小宮山印刷工業株式会社
〒	一六二―〇八〇八 東京都新宿区天神町七八
電話	〇三―三三六〇―五二一一